

The voice of Teachers and Students

“論文”ワークを体験した先生方、生徒たちの感想です。

難しいイメージの論文作成に楽しくスムーズに取り組めたなど、実際に教室でお聞きした声をご紹介します。

● 先生の声 ● 生徒の声

先生 論文だから固くなるのかと思ったら、最初にチームを組んで楽しく話し合うことから始まるので、生徒たちの論文に対する苦手意識がスタート時点からなくなった。

生徒 みんなの論文が論理的でとてもわかりやすかった。書き手の気持ちがすごく伝わってきて、言いたいことがしっかり届いてきた。

先生 生徒たちはよくパソコンで無作為に調べるけれど、今回は自分の探したい情報が明確になっていたため、しっかり目的を持って調べることができていた。いつのまにかパソコンを道具としてきちんと利用している点に驚きました。

先生 進めていくうちにチームでの話し合いがみんな上手くなっていきました。お互いに、“すごいね”と声をかけ合ったり、拍手をするなど、聞く姿勢や質問するタイミングが絶妙で、とても盛り上がっていました。チームで取り組む練習や、人の話を聞く練習にもなりました。

生徒 みんなの発表を聞いて、わたしの中に火が点いた。もう一度、論文を書きあげたくなった。

生徒 自分の伝えたいことを伝えようとして書くから、いくらでも書ける。むっちゃ書ける！

生徒 授業があつと言う間だった。好きなことをテーマに語って、書いているだけで時間が過ぎるのが幸せ。友達の新たな一面も知ることができて楽しかった。

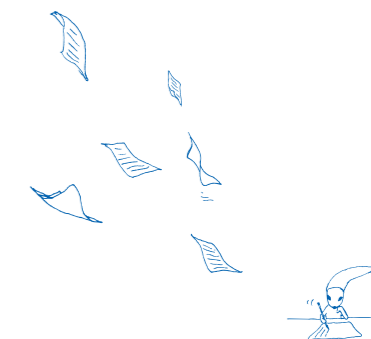
生徒 論文の発表って今までつまらないものだと思っていたけど、今回は発表する人の個性が見えて、とても興味深く聞けました。

先生 感想文でなく、ちゃんと客観的に捉えて書かせるようにできているので、自分がなぜそれが好きなのかもわかるようになり、人と違った自分の個性を知るきっかけになっていた。

TWICE PLAN

お問い合わせ

株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町1-11-804
Tel 03-6861-3553 / Fax 03-6861-3554
Mail info@twiceresearch.jp
URL <http://twiceresearch.jp>



TWICE PLAN 論文WORK

“論文”ワーク

「ここを使って論文を書こう」
——書いても読んでも楽しい不思議な“論文執筆”体験

表現する意欲を大切にしながら、論理的、客観的に文章を書くためのワークです。

“自分の好きなもの(こと)”をテーマに、チームメイトとコミュニケーションを繰り返しながら、魅力的な論文を執筆します。

【身につく力】

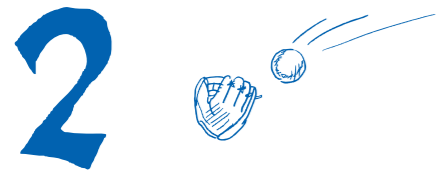
文章作成力、自己表現力、
コミュニケーション力、チームワーク力、
論理的思考力、情報収集・活用力、
情報モラル、プレゼンテーション力



“論文”ワーク

本物の自分の力で 本物の論文を書く

自分の伝えたいことを伝える喜びを力に、論文執筆のトレーニングをします。話して、聞いて、書いてを繰り返しながら、自分の表現したいことをよりよく受け取ってもらうために、客観性、論理性が大切であることを理解していきます。「論文は難しい」という先入観を取り去り、文章を書くこと、表現することの楽しさを実感します。



話したことを書く、チームで読み合う

論文を書くことで、 新たな自分を発見

話したことを形式にそって整理してみます。知らない人にもよりよく伝わるように説明を加えて、簡単な論文に仕立てます。書いたものを読み、チームで感想を話し合います。



1

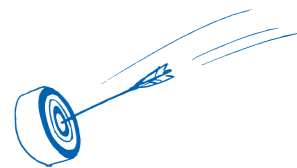


チームづくり、みんなと話す 好きなものについてなら いくらでも話せる

3～5人のチームを結成し、リーダーを決めて、チーム名や意気込みを考えます。そして、アイスブレイクでひとりずつ「自分の好きなもの」について話し、チームメイトからのコメントをもらいます。



3



論文テーマを決める、チームで話す 準備を踏まえて本番開始

各自、自分自身が「本当に書きたい!」と思える論文のテーマを決めて、それについて調べていきます。だいたいの方針が決まったらチームメイトに話し、感想を聞きながらヒントをもらいます。



4



プロット立て、執筆

仲間に相談しながら、 自分だけの論文を執筆

論文の設計図にあたるプロットをつくります。整理とリサーチを繰り返し、必要なときは仲間にも助けをもらいながら、執筆していきます。



5



推敲、発表

自分の意見を人に どのように伝えていくのか

何度も読み返して、自分の文章を見直します。声に出して読む、別の人に聞いてもらうなど、推敲を重ねて完成へ。完成したらチーム内で発表します。さらにクラス、学年で発表会をするのもよいでしょう。全員の投票で“論文グランプリ”を決めます。



6

振り返り、まとめ

書く体験を通して、自身のことを知る

これまでのワークを振り返って、チームでディスカッションします。最後はひとりひとりレポートを書いて終了です。



ワークの流れ

12のステップにそって進行します。チームをつくり、自然な流れでまず簡単に書き、その経験をもとに執筆して、発表。最後に活動を振り返ります。取り組み時間数は学校の状況に合わせて柔軟に設定することが可能です。

(※1ステップの目安は最少45分です)

“論文”ワーク

- 1 最初の準備
- 2 書くことを話す
- 3 話したことを書く
- 4 次への準備
- 5 リサーチ①
- 6 書くことを話す
- 7 話したことを書く
- 8 リサーチ②
- 9 仕上げる①
- 10 仕上げる②
- 11 発表
- 12 振り返り

好きなもののちから

漫画、スポーツ、友達など、「これならいくらでも話せる」というものを誰でもひとつは持っています。それをチームメイトに伝えることで、なぜそう思うのかを客観的に捉えることになります。自分の性質や特長を知り、進路を考えるきっかけにもなります。

